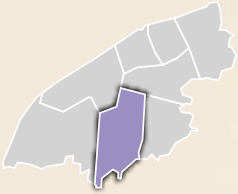

Minami

南区

P193-P207

新潟市民文化遺産ガイドブック

有形文化遺産

MAP012

きゅうにいがたこうつうでんしゃせんきゅうつきがたえきかんれんしせつ

旧新潟交通電車線・旧月潟駅関連施設

南区月潟（旧月潟駅内）

昭和8年（1933）8月に新潟・燕間に開通した全長約36kmの新潟交通電車線は66年間、沿線地域の近代化・経済・文化の発展をもたらして駆け続けました。この歴史を後々まで語り継ぐ必要があります。

<開催時期>
月潟祭公開:6月第4日曜日
月潟大道芸フェスティバル協賛公開:9月第4日曜日

推薦団体　かぼちゃ電車保存会

南区

有形文化遺産

MAP012

旧白根配水塔

（きゅうしろねはいすいとう）

南区上下諏訪木11番地内

旧白根配水塔は、昭和8年（1933）3月に旧白根町の水道施設の1つとして建設されたものです。当時、県内8番目となる上水道で、総工費12万円で建設され、地域住民の生活と産業を支えてきました。その後、町村合併などにより給水量が増加し、給水不足を解消するため新たな浄水場が建設され、配水塔もその役目を終えましたが、白根大凧合戦期間中を中心にライトアップされるなど、地域のシンボルとして多くの住民から愛され親しまれています。

なお、著書「配水塔」（監修・執筆　平山育男）によれば、全国で58基の配水塔が造られ、うち現存するのが21基（2006年3月現在）と記されており、そのうち県内では4基が保存されています。

推薦団体　白根コミュニティ協議会

有形文化遺産

MAP012

しろねじんじゃ［ほんでん、へいはいでん、みこし］

白根神社【本殿、幣拝殿、神輿】

南区白根2892

白根神社の本殿は明治41年（1908）、幣拝殿は大正7年（1918）の竣工です。本殿は、三間流造正面唐破風向拝付、幣拝殿は、入母屋造桟瓦葺向拝一間付平入であり、また、本殿部両側面、背面中央部に裏門をつけた玉垣があります。往時の白根町部の繁栄をうかがわせる作りとなっています。

明治23年（1890）の白根町大火にて以前の社殿はすべて焼失しましたが、土蔵に保管されていた元禄2年、（1689）新発田藩領主により拝領したとされる神輿は、歴史ある町の産業である、仏壇作りの職人たちによって修繕を繰り返しながら、毎年3日間の町内御巡幸を行っています。

また境内には、明治6年（1873）及び明治9年（1876）と裏書きされた大きな石造手水鉢、百度石などの構築物も残っており、社殿全体で田園地帯の中心商業地として栄えた白根町が忍ばれます。

<開催時期> 御神輿巡幸:8月26日～28日

推薦団体　白根神社氏子総代会

有形文化遺産

MAP012

しろねのまちやのまちなみ

白根の町屋の町並み

南区白根

新潟大学工学部の調査によれば、当該区域内には町屋を中心とした歴史的建造物が数多く残っており、新潟市内ではもちろんのこと、新潟県内でも有数の歴史的な景観を有する町並みが残っていることが明らかになっています。

町屋だけでなく洋館や関東大震災以降に普及した看板建築といわれる建物も存在し、他の地域とは異なる景観を有しています。また建物だけでなく、南北に延びる本町通りに直交する小路や路地などは、17世紀に町立てされた当時の都市構造を良く継承しており、文化的価値が有ります。一方で、白根が歴史のある町である事の理解が、あまり多く得られていないため、今後はまちあるきなどの様々なイベントを通してその存在を認知してもらい、保存していくべきものであることの理解を広げていき、これらを活用することで地域の活性化に結びつけていくことが期待されています。

推薦団体　しろね町屋あるき研究会

有形文化遺産

MAP012

きゅうささがわけじゅうたく

旧笹川家住宅

南区味方216

笹川家は、安土桃山時代に信濃国笹川村から武田信玄の血族が移住して来たと伝えられており、昭和45年(1970)にこの地を離れるまで、14代300年以上に渡って続いた名家です。

江戸時代には旧村上藩の大庄屋に任命され、味方組8ヶ村(味方・白根・板井・木場・黒鳥・北場・亀貝・小新。合計約8,000石)を束ねる大庄屋を代々務め、年貢の収納、藩からの通達、警察や裁判権を与えられていました。旧笹川家住宅は、日本でも有数の規模を持つ、近世後期の大庄屋の大住宅です。

前庭の眺望、天正年間築(推定)の表門、威厳のある表座敷、土間上部の太い小屋組み、土庇と障子欄間、屋外に建ち並ぶ土蔵群を合せて雄大な歴史的建造物です。

母屋は文政2年(1819)の火災で全焼した後、7年間にわたり旧村松町の棟梁、小黒杢右衛門によって再建されたもので、国の重要文化財として11棟が指定されました。

<開催時期> かぐらin笹川邸(地域に伝わる神楽等の伝統芸能の祭典):毎年秋開催

推薦団体 大庄屋の会

無形文化遺産

いばらそねだいだいかぐら
茨曽根太々神楽

南区茨曽根3529

江戸時代前期にこの地に伝えられ、先人に貴重な伝統芸能として大切にされてきました。いつまでも継承されていくべき神楽です。

推薦団体　茨曽根太々神楽保存会

無形文化遺産

うすいちくまつり「たぬきのむこいりぎょうれつ」

臼井地区まつり「狸の婿入り行列」

南区臼井地区

臼井地区は、信濃川左岸沿い約4kmに960戸の集落が点在する純農村地帯です。今から20数年前までは、小学校が2校あり、またその校区の経済圏も別々でした。そんな関係で昔から地区民が一堂に会する機会がありませんでした。

近年の少子化傾向で当地区も小学校の統合が決まりました。新小学校を開校し平成26年（2014）で20周年を迎えましたが、統合当初は建設地の綱引きがあり、しこりが尾を引いていました。そんな時、地元の創作民話作家が創作民話『狸の婿入り』を書いたことから、どちらからともなく地区民融和の為に、お祭りにしたいとの機運が盛り上がりました。平成14年（2002）春に、臼井地区自治会連絡協議会の議題に上り、異議なく決定されました。予算措置もなく苦労しましたが、地区民が汗を流して祭りをやり遂げました。その時の達成感の感動は今でも語り草です。

推薦団体　臼井地区コミュニティ協議会

無形文化遺産

角兵衛獅子（かくべえじし）

南区月潟

角兵衛獅子は、南区月潟（旧月潟村）に伝わる伝統芸能です。江戸時代に最盛期を迎え、昭和初期に廃絶にいたりましたが、地元の人々の努力によって昭和11年（1936）に保存会が結成され、芸妓による獅子舞として復活。昭和30年代には子どもが演じる旧来の形となり、今日まで継承しています。新潟市を代表する郷土芸能のひとつであるとともに未来に伝えるべき貴重な芸能です。平成25年（2013）4月に市の無形民俗文化財に指定されました。

推薦団体　角兵衛獅子保存会

無形文化遺産

白根の獅子舞（しろねのししまい）

南区白根魚町

白根の獅子舞は、舞い込み、四方舞、刀舞の3つの演目で構成されています。幕の中に4人が入って舞う事から「むかで獅子」「八本足神楽」などと呼ばれる珍しい獅子舞です。地元南区の白根神社で奉納されていましたが、明治20年（1887）に神社が火災にあった際に縁起なども焼失してしまい、詳しくは伝わっていませんが、一説には約200年前に伊勢神楽が伝わったものが原型になっていると言われています。

現在では白根神社の秋季大祭の中日8月27日に町内を練り歩き披露しており、地元に大変馴染みの深い伝統芸能として、新潟市指定無形民俗文化財に指定されています。

近年は若手の育成にも力を入れており、高齢者施設の慰問など活動の幅も広がっています。今後は更に活動の範囲を広げ新潟市民に広く親しまれるものになることが期待されています。

推薦団体　魚町神楽連

無形文化遺産

しろねこうた・しろねたこおんど

白根小唄・白根凧音頭

南区白根

昭和6年(1931)5月13日に大火災がおき(413戸焼く)、一日も早い復興と災禍にうちひしがれた町民を元気付けるためにと翌年、町長始め町議の方々が当時全国的にブームであった新民謡を我が町にもと想い立ち、早速その作業に入りました。全国的に名の知れた野口雨情、中山晋平に作詞、作曲を頼み、沼垂芸者から日本ビクターで既に名声を博していた小唄勝太郎に歌ってもらう様依頼し、快諾を得ました。来町以来町民気質を知るため、散策中に気さくな立ち話から、また宴席での言葉の遣り取りから凧合戦の賑わい、歴史、地理、地勢、風俗、人情等の知識を得て、七・七・七・五調の歌を作りました。凧合戦の勇壮な詞は「白根凧頭」、花街向きの粋な詞を「白根小唄」としました。

振り付には文化功労賞を受章した藤蔭静樹さんに依頼しました。

両氏作の「十日町小唄」とは双子の様に良く似ています。

推薦団体　白根コミュニティ協議会

無形文化遺産

しろねおおたこがっせん
白根大凧合戦

南区白根、西白根、中ノ口川堤防上

越後平野を流れる大河、信濃川の支流、川幅約80mの中ノ口川の両岸から24畳の大凧を揚げ、空中で絡ませ川に落とし、相手の凧綱が切れるまで引き合う勇壮な世界最大スケールの大凧合戦です。

その起源は、江戸時代の中頃、白根町の人が中ノ口川堤防の改修工事の完成を祝って藩主から送られた凧を揚げたところ、対岸の西白根に落ち、家や農作物を荒らし、これに怒った西白根の人が対抗して凧を揚げて、白根側にたたきつけたことから凧合戦が始まったと伝えられています。

越後平野の初夏を彩る風物詩として親しまれている新潟県を代表する伝統行事です。

平成27年(2015)3月には、新潟県無形民俗文化財に指定されました。

<開催時期>毎年6月上旬　木曜～翌月曜の5日間

推薦団体　白根凧合戦協会

無形文化遺産

西白根神楽舞（ししろねかぐらまい）

南区西白根

起源・由来をたどると、今から120年ほど前、大地主であった高橋諶三郎氏（明治30年頃の白根村長）が京や伊勢詣をされたおり、獅子頭・装束等を買い求め、帰郷後西白根二番組若衆達を鼓舞激励し、神楽舞を起したのが始まりとされています。

神楽舞は「舞込み」「四方舞」「刀舞」の神事芸と「才蔵」「丹三郎」の余興芸からなっています。獅子舞は神事芸では2人、余興芸では4人で舞い、八本足の獅子舞は県内はもとより全国的にも珍しいとされています。

昭和初期に保存会が発足し、戦争などで一時中断しましたが、昭和60年（1985）に再度保存会が結成され、子ども神楽も誕生しました。

現在は、毎年8月末に南区西白根にある白根神社の秋季祭に奉納することが伝統となっているほか、地域の各種行事でも舞を披露しています。

推薦団体　新潟市南区西白根

無形文化遺産

新飯田祭り 大名行列

にいだまつり　だいみょうぎょうれつ

南区新飯田687（神明宮神社）

新飯田では、6月に春季例大祭が開催され、それに伴う大名行列が町内を練り歩きます。この大名行列は、嘉永年間（1850年頃）から伝承され、培われ、160年以上にわたって受け継がれてきました。

大名行列は、奴組、お供・稚児組、天狗・四神組、神輿組、笛・太鼓組、神官・総代と、総勢120人ほどで構成され、行進の途中で、奴は「しゃぐま」や「傘」を投げ渡し、天狗は子どもたちの頭を撫で、神輿は「勇壮あばれ神輿」と呼ばれるように町内を駆け回ります。

大名行列には地元の人はもちろん、県外で働いている人も帰ってきて参加し、また、各家庭では親戚・知人・友人を招待し親睦を深める場にもなっています。

圧巻は「舞い込み」です。多くの人々が見守る中、祭を終わらせたくないと願う一団が神輿が社殿にあがるのを阻止し、神輿組と何回ももみ合います。また、笛太鼓組の演奏は、行列が出発してから神輿が納まるまでの4時間半、全く途絶えることがありません。

推薦団体　新飯田コミュニティ協議会

無形文化遺産

小川連中（おがわれんちゅう）

南区新飯田無番地（小川連会館）

毎年6月に行われる新飯田祭りでは、大名行列や神輿が町中を練り歩きます。その先頭に立ち、道中の悪魔祓いとしての神楽舞や小学生たちによる浜おけさなどの手踊りを披露しているのが小川連中です。

小川連中の歴史は古く、江戸時代後期に渋谷籐右エ門が、現在の三条市井戸場地内の蛇尾（だお）という船の渡し場に着き、自ら唄い踊りをしていたものを、新飯田地区の特に中ノ口川の舟付場として栄えていた川前地域の多くの船頭衆が井戸場に習いに行き、伝承したと伝えられています。当時伝承を受けた川前の船頭衆は川前小路の「川」と「小」を取り合わせて「小川連中」と名付けた神楽衆を作り、正月や祝日に門付けを行っていましたが、嘉永年間より、現在の祭りのような形となりました。

現在は、大人の若衆が神楽舞や天狗踊りを、小学生などの子どもが6種類の手踊りを踊っています。

推薦団体　新飯田コミュニティ協議会

memo